



## 巻頭言

## 新年のご挨拶

病院長 **かさま つよし**  
**笠間 毅**

明けましておめでとうございます。皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて一昨年来の世界的なコロナ禍の中、昨年夏の第5波はとりわけ大きなものとなり当院も院内感染対策の強化とともに入院病床の拡充をしてきました。また1年延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は感染状況が悪化する中、やむを得ず無観客開催となってしまいましたが、日本や各国のアスリートたちの活躍をテレビなどで見ることで多くの感動や勇気などを与えられたのではないかと思います。周辺に多くの競技会場が集中していたため当院の医師をはじめ多くの医療ボランティアも協力し、関係者の診療あるいは入院加療なども行いました。今後もウィズコロナ体制の中、救急を含めた地域医療支援病院としての使命を全うすることが当院に課せられた役割と考えています。ご協力いただいている全職員の皆さんに感謝致します。



最近よくSDGsという言葉聞くことが多いかと思います。SDGsとは2015年の国連サミットで採択された「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2030年までに達成すべき17のゴールと169のターゲットで構成された国際目標のことです。その目標の中にも医療機関が積極的に関与しなければならない項目もあります。第3番目にあげられる“より良い保健と福祉の提供（Good Health and Well-Being）”はまさに国や自治体とともに医療機関の役割そのものであり、その実現に向けた効果的な取り組みが必要になってきます。患者さんのより良い健康的な生活の実現に向け初期治療を担当する当院と地域の慢性期また回復期の医療機関との“持続可能な”医療連携の更なる推進が必要であり、病院内での垣根を越えた職種での素早い取り組みをシステム化しさらに進化させていきます。また別の目標のひとつに“働きがいと経済成長（Decent Work and Economic Growth）”があります。この“働きがい”は現在当院においても改善に向けて知恵を集めなければならない問題です。今年は特に2024年の“医師の働き方の改革”の実現に向け諸問題の解決や体制整備を完成させていくその開始年です。この問題は医師のみならず全ての医療従事者にも関わってくることで、病院教職員全ての労働時間の適正な管理などをタスクシフト・シェアの推進と合わせてさらに進めていかなければなりません。魅力ある働きがいのある当院の医療労働環境を実現するため職員皆様のご協力をお願い致します。

今年の4月に当院は開院9年目を迎えます。今までの8年間で地域に根ざした高度急性期病院として、また大学病院の分院として基礎体力作りに努めてきました。しかしこれから10年先の未来に向けて、さらに飛躍できる体制を作るため組織としての改革など行いながら安心・安全な医療の更なる強化に注力していきます。この一年が皆様に取りまして輝く素晴らしい年となりますよう心よりお祈りいたしまして、私からの年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



### 第93号のトピックス

- 新年のご挨拶
- 再生医療（PRPを用いた変形性関節症治療）について
- 専門診療のお知らせ（不妊外来）
- バルーンアートを寄贈いただきました
- ご意見ご要望 ・ ご支援への御礼
- 編集後記



# 土曜日の不妊外来初診予約枠 拡大しました

当院では女性外来で不妊治療を行っています。子どもがほしいけれど体外受精は不安という人や、子宮筋腫や子宮内膜症などの疾患があり手術が必要な人を対象に、まずは自然な妊娠を目指し不妊検査とタイミング指導を行っています。その後、必要に応じて人工授精へのステップアップと進めていきます。卵管閉塞の方には卵管鏡も対応が可能です。体外受精につきましても昭和大学病院と連携して対応しています。当院の不妊外来の特徴として、



近藤 哲郎医師

1、日本生殖医学会専門医・指導医によるきめ細やかな医療の提供

2、妊娠から出産までの包括的ケア（大学病院とも連携）

3、不妊に関する全ての手術に対応

不妊治療は、時にゴールの見えない治療です。思うように治療が進まず精神的な負担が大きいことと思います。どのような治療を受けるのか、年齢、治療内容、治療期間、費用等について、後悔しないようにご夫婦で話しあう時間をつくってください。悩んだ時には、相談できる場があります。その際はお気軽にお申し出ください。

【詳細はこちら】



# Report

## バルーンアートを寄贈いただきました



この度、「Lucaemma 小児病棟支援プロジェクト」よりバルーンアートを寄贈いただきました。いただいたバルーンアートは、こどもセンターに飾り、入院中の子供たちに元気を届けています。お心遣いに、職員一同よりこの場をお借りして御礼申し上げます。ご支援ありがとうございました。



## ご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答・改善策等
<p>今回入院のため、お世話になりました。長らく福祉現場で働いていた者です。看護師さんたちの献身的な働きぶりを拝見し、体験して改めてその素晴らしさ・素敵さに感動・感謝しました。ありがとうございました！</p> <p>頑張れ！江東豊洲病院！！</p>	<p>退院おめでとうございます。また、このようなお褒めのお言葉をいただき、感謝申し上げます。</p> <p>手術後、病棟内でストレッチやリハビリに励んでいらっしゃる姿を拝見し、回復に向けてたゆまぬ努力であるとお見受けしていました。</p> <p>そのような気持ちに対して寄り添い、順調な回復と退院を迎えることができ、私たちも嬉しいです。</p> <p>頂きましたお褒めのお言葉に恥じることがないように、患者さん方の回復への努力に寄り添ってまいります。</p> <p style="text-align: right;">回答部署：看護部</p> 

## Report

### ご支援への御礼

新型コロナウイルス感染症の治療にあたる医療従事者に対して、多くの皆様から労いのお言葉や心温まるご支援を頂戴しています。お心遣いに心から感謝申し上げます。

今後も私たちは皆様からのご支援を力に変え、引き続き安全・安心な医療の提供に努めてまいります。皆様からのご支援に対し、重ねて御礼申し上げます。

なお、ご支援の詳細は当院ホームページでも掲載しております。

(<https://www.showa-u.ac.jp/SHKT/news/nid00002622.html>)



編

集

後

記

あけましておめでとうございます。昨年は年明け早々から始まったコロナウイルス感染拡大やらコロナワクチン接種、コロナ禍での東京オリンピック・パラリンピック開催等々、コロナ絡みの様々な事柄が目まぐるしく過ぎていきました。大きく変わった日常にもだいぶ慣れ、これまで行ってきたことの中には本当は必要なかったのではないかと気付かされたこともあったかと思えます。そして、冬の足音が近づく頃、だいぶ感染状況が落ち着き、できなかったことが少しずつできるようになり明るい兆しが見えてきたところに、再び新たな影が……。しかし、我々にできることはこれまで積み重ね守り続けてきたことを続け、一喜一憂せず煽られず冷静さを保ち、目の前のできることを淡々とこなし、そしてほんの少し周りの人たちのことを考えることに変わりはないと思います。今年は暗い影に怯える時間が少しでも短くなり、雲外蒼天となることを祈りつつ。


 麻酔科 おおつか なおき 大塚 直樹



昭和大学  
SHOWA UNIVERSITY

昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院  
Facebook ページ

Showa University Koto Toyosu Hospital